

# 歴史と清水があふれる上星川エリア



## まちの魅カインデックス

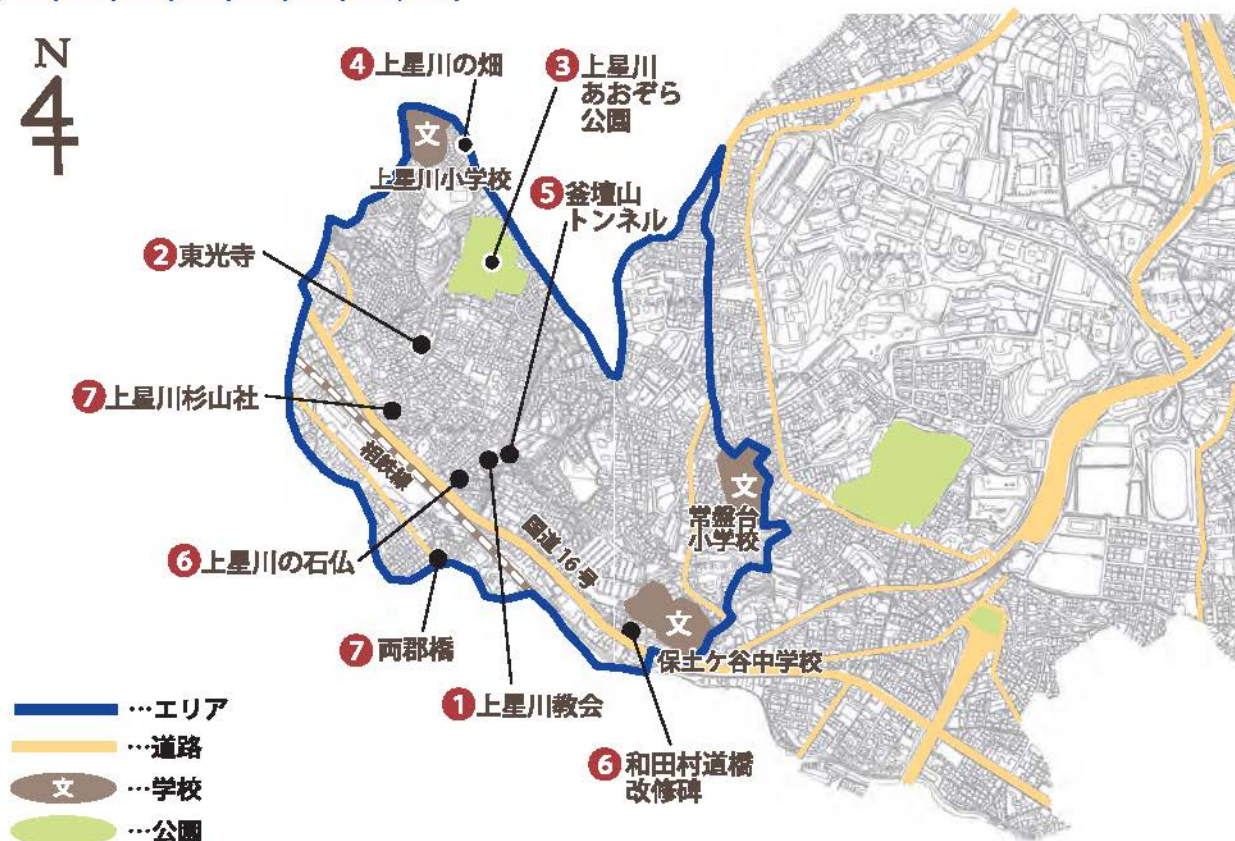
- ① 釜壇山に伝わる源頼朝伝説  
～「お釜だ様」のおはなし～  
～伝説の地 釜壇山は、今～
- ② 丘の麓で人々を迎える 東光寺
- ③ 空に出会う～上星川あおぞら公園～
- ④ 上星川の畑とスイカドロボー
- ⑤ 歩いて感じる上星川の立体的な空間活用
- ⑥ 道は語る
- ⑦ 上星川のあれこれ  
～近隣に多い鎮守様～  
～帷子川とともに栄えた地場産業～

メモ

# 歴史と清水があふれる上星川エリア

0 250 500 750 1,000m

N  
4



## 1

# 釜壇山に伝わる源頼朝伝説 ～「お釜だ様」のおはなし～

**源**

頼朝公が富士の裾野へ  
巻狩に行く途中、上星川  
の釜壇山でひと休み。頼朝公、  
「喉が渴いた。茶を飲みたい」  
家来は東光寺谷戸の井戸から  
汲んで来た水を、二つ重なっ  
ている釜壇石と呼ばれた上石  
の丸い凹みの部分に入れ、薪  
を焚き、茶を煮ました。一気  
に飲み干した頼朝公、「何と  
うまい茶だ！良い水を授けて  
くださった水神様へ感謝しよ  
う」



お釜だ様



**麓**

(ふもと)を流れる帷子  
川に向けて射られた御  
礼の矢は、川を越え、蔵王高  
根神社の崖に刺さり矢竹が生  
え、矢崎、矢シ塚の字名が生  
まれたそうです。釜壇の町名の  
由来も釜壇からだとか。後の  
世に、この石を削って飲めば、  
咳や喉の痛みに効くとの噂が  
広まり、癒えればお茶やお酒  
を竹筒に入れて供えました。  
この風習は終戦の頃まで続い  
たそうです。東光寺谷戸には  
今も清水が湧いています。

ほどがや語りべ集

歴史と清水があふれる上星川エリア



# 1 釜壇山に伝わる源頼朝伝説 ～伝説の地 釜壇山は、今～

上

星川駅から国道16号を渡り、貨物線に沿った急坂を登ると、隧道の真上に出ます。そこが伝説の地、釜壇山。土地の人々から「お釜だ様」の愛称で親しまれてきた場所に、平成23年、上星川教会が建てられました。神奈川建築コンクールで優秀賞を受賞したという清楚な造りの教会堂で、庭に立てば物語に出てくる景色が一望できます。



数

年前のある日、私は塚の周りで釜壇石を探していました。石は地主の蔵に納めたと聞いていましたが、もしかしたら…と。帰り際、ふと目に止まった小さな石碑。表面には「頼朝時代武士の塚」「昭和十三年八月」「金子羽一立」の文字。刻まれている紛れもない夫の父親の名前。70数年前にお釜だ様に寄せた義父の深い想いに触れ、義父に巡り逢えたかのようなうれしさでした。長い歲月、塚を見守り続けてきた石碑は今、教会堂の入口にあります。

## 2 丘の麓<sup>ふもと</sup>で人々を迎える 東光寺

国道16号の喧騒を離れた丘の麓にたたずむ「東光寺」。およそ370年前に創建されました。境内には湧き水の池があり、緑豊かな庭を潤しています。



本尊は薬師如来で、「聖徳太子によって作られた」とも伝わるほど、古くからのもの。寅（とら）年の4月に行われるご開帳では、ご本尊の右手から伸びる五色の糸が境内を彩ります。



訪れる人々を迎えるのは、他ではなかなか見られない山門です。地面から伸びるツゲの木を、門の形に刈り込んだもの。もともとは昭和30年ごろまでであったもの（左写真）ですが、惜しくも枯れてしまい、その姿は失われていました。



その「ツゲの山門の復活を」と木を植えなおし、今のもので約20年。先代の力強さとは一味違う丸みのある姿は、人々を温かく迎え入れるようです。



ほどがや語りべ集

歴史と清水があふれる上星川エリア



## 2 丘の麓<sup>ふもと</sup>で人々を迎える 東光寺

ほどがや語りべ集

歴史と清水があふれる上星川エリア

斜面に沿って立ち並ぶお墓。横浜では見慣れた風景ですが、東光寺のお墓は一つひとつの墓石が一定の間隔を空けて整然と並んでいるのが特徴です。

そんな東光寺の敷地内に、あるお墓があります。

### 関東大震災受難者之墓



大正12年の関東大震災では、保土ケ谷区でも大きな被害が出ました。このお墓には当時、保土ケ谷町帷子(現川辺町)にあった紡績工場で働いていて被害にあった女工さんたちが眠っています。

日本の近代化の歴史の中で起きた悲しい出来事。彼女たちの存在は、私たちにとってそう遠いものではないと、このお墓は教えてくれています。

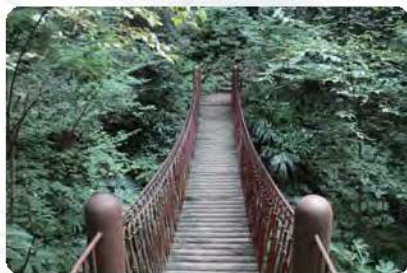


語りべ：奥津 憲聖さん



**相** 鉄線の上星川駅から歩いて15分ほど。「上星川あおぞら公園」の入口は、濃い緑に空を覆われています。

**東** 内に足を踏み入ると、森の中からせせらぎの音が！涼を感じさせます。



**つ** り橋を渡り、



**森** の中の道を進むと…。



### 3 空に出会う～上星川あおぞら公園～

ほどがや語りべ集

歴史と清水があふれる上星川エリア



**広**い空の下にある野原の周りには、子ども向けだけでなく、大人の健康づくりにも役立つ遊具も。



**虫**取り網を持った親子や話に花を咲かせるご婦人方、遊びに夢中の子どもたち。そして、羽根を休める鳥たち。誰もがゆったりとした時を楽しんでいるようです。

語りべ：北川 博之さん



## 4 上星川の畑とスイカドロボー

上星川にはたくさんの住宅が並んでいますが、そんな町の中で小さい頃からこの地に住み、現在も農業を営んでいる渡邊さんにお話を伺いました。



**渡** 邊さんのお話によると、50年以上前の上星川では、今では考えられないほど町が木々に覆われていて、子どものころはよく木登りをしたり、キイチゴを採りに行って食べたりしたそうです。また、家の畑のスイカをドロボーされたこともよくあったとのこと。



ほどがや語りべ集

歴史と清水があふれる上星川エリア

## 4 上星川の畑とスイカドロボー

ほどがや語りべ集

歴史と清水があふれる上星川エリア



渡

遠さんの畑で採れたトマトをいただいたのですが、とても甘くておいしかったです。昔に比べると畑の数は減ってきましたが、このような素敵な畑がこれからも残っていくといいですね。



語りべ：鈴木 晃さん



## 5 歩いて感じる上星川の立体的な空間活用



### 釜壇山トンネル前の景観

保土ケ谷区は坂の多い区として知られていますが、上星川駅周辺を歩くと、土地の起伏を体で感じることができます。

さらに上星川では、高低差のある土地ならではの立体的な空間活用の事例も見つけることができます。例えば、上の写真は釜壇山のトンネル前の景色ですが、トンネル横の山の上を通るルートが現在も活用されていることが分かります。さらに、車道の上空を歩道橋が横切っており、

狭い空間で3方向のルートが交差しています。



斜面に沿って建つ住宅やマンションが上星川らしさを感じさせます。

ほどがや語りべ集

歴史と清水があふれる上星川エリア

## 5 歩いて感じる上星川の立体的な空間活用

ほどがや語りべ集

歴史と清水があふれる上星川エリア

### 高架下広場・公園

起伏の多い土地だからこそ、線路や道路の高架下は住民にとって貴重なスペースです。そんな高架下の土地を公園として利用している事例を2つご紹介します。



JR貨物線の高架下を利用した上星川のちびっ子広場  
(上星川東部第二子どもの遊び場)



横浜新道の高架下を利用した和田一丁目公園

語りべ：奥津 憲聖さん



## 6 道は語る

### ①和田村道橋改修碑

**保** 土ケ谷の町を歩くと風景が変化に富んでいることに、改めて驚かされます。国道16号（八王子街道）を歩いて感じるのは、意外なほどの地形の険しさ。特に和田町駅と上星川駅の間の釜台町あたりは、崖と帷子川に挟まれて、平地はほとんどありません。



**こ** の道は昔から、米や生糸が行き来する重要な場所。しかし、「難所」とされたこの辺りでは人や馬が倒れ、時には命を落としたといいます。そこで立ち上がったのが、江戸の住人だった桜井茂左衛門。彼が資金を提供し、地元や近隣の村民も協力して、「道橋（みちはし）」（右イメージ図）を作りました。

みちはし  
道橋とは・・・（想像図）  
八王子住蓮  
和田村道橋  
〔1717年 築造 桜井茂左衛門、同村和門門〕  
〔1718年 修繕 藤田清左衛門等……〕  
白根村道橋 〔1719年 築造 山本もつじ〕  
〔寛政6年（1794） 築造 山本もつじ等……〕



イラスト：村田 啓輔さん

ほどがや語りべ集

歴史と清水があふれる上星川エリア

## 6 道は語る



**土** 木技術が今ほど発達していない江戸時代のこと。簡単な工事ではなかったでしょう。その由来が元文2（1737）年の年号とともに記された石碑

が建てられました。ちなみにこの石碑、一度は失われていたようですが、大正時代の終わりがち帷子川の底から苔むした姿で見つかりました。今は、保土ケ谷中学校がある山のふもとで静かに歴史を語っています。

### ②上星川の石仏

**そ** こから西へ。上星川駅を過ぎて、杉山神社の手前に道祖神と庚申塔がたたずんでいます。道祖神は、古くから境界を守る神様として信仰されました。ここにあるのは江戸時代の明和2（1765）年のもの。区内でも珍しい、2体並んだ姿です。また、庚申塔は、それより早い正徳4（1714）年のもの。



道しるべを兼ねていて、道祖神とともに行きかう人々を見守っています。



## ① 杉山神社の発祥

帷

子川沿いに上流から川島町・上星川・仏向町・和田町・星川・西久保町（今井川沿）。区内に6社が鎮座する杉山神社。

『新編武蔵風土記稿』によれば江戸時代、武蔵国に72社も祀られていたそうです。横浜市内には35社（平成17年）が郷土の鎮守様として親しまれています。



上星川 杉山社

起

源は、はるか天照大神・天の岩戸隠の頃までさかのぼります。八百万（やおよろず）の神々の中で、忌部（いむべ）氏の遠祖「太玉命（ふとだまのみこと）」は祭事を司る神でした。祭具の幣（ぬさ）の原料、麻の栽培のプロ。阿波忌部氏は東国に進出し「安房の国」を建て、麻（＝纒）を实ら



せる国「上纒・下纒」を治めます。武蔵国への進出は、麻の栽培に適した土地柄故でしょう。そして、鶴見川、帷子川、大岡川沿いに忌部氏の遠祖を祭神とした杉山神社が建立されました。



# 上星川のあれこれ ～帷子川とともに栄えた地場産業～

## ②上星川の捺染工場


**帷**

子川は、旭区の上川井に源を発し、市内を西から東へと流れる全長20km足らずの2級河川です。上星川を流れる帷子川の川沿いには、かつて大小の捺染工場が軒を

連ね、活弁な生産活動を展開していました。開港以来、絹の扱いが多かった横浜に起きた地場産業は、帷子川とともに昭和40年代まで発展を続けました。一色ごとの型を幾度も重ねて染め上げる捺染。染め上げた布を川の中に入れてザブザブと洗う水洗作業は帷子川の風物詩でもありました。しかし、昭和46年、水質汚濁防止法が成立して以来、工場はより豊かな流れを求めて地方に移転。今では捺染関係の会社は著しく減少しました。

## ③水道道と両郡橋

**上**

星川には、「水道道」と呼ばれる道路が通っています。明治20年、我が国最初の近代水道が、津久井の三井村から横浜まで創設されました。水源から44kmにわたり埋設された水道管の上を人馬が往来できるようにしたのが水道道です。水道管が帷子川を渡るためにつけられたのが「両郡橋」。そこが都筑郡上星川村と橘樹郡坂本村の境界だったので、そう名付けられたのです。

